

# koaa press

こあぷれす

NPO法人鹿児島県有機農業協会

〒890-0046 鹿児島県鹿児島市西田2-11-8 明日ビル2F TEL 099-258-3374 FAX 099-258-2204 HP▶http://www.koaa.or.jp E-mail▶koaa@koaa.or.jp



## 大和田明江さんを偲ぶ



出会いは明江さんが協会の事務局長をしていたときでした。私は熊本県有機農業研究会で有機JAS認証事務局をしている頃で、有機JAS制度ができたものの信頼性が揺らいた(と言われた)時期でした。

中央から遠い九州は情報が入って来づらく、JAS制度について物申したくとも声が届けられない。中央に任せていては杓子定規に規制されてしまい、このままでは小規模な生産者は淘汰されてしまうと危機感を持っておられました。そこで明江さんが同じ九州にある認証機関に声をかけ、九州の認証機関でまとまって声をあげていこうと勉強会をしたり、情報共有の場を作ったり、業界団体への提言などをおこなってこられました。

有機農業実践者としてはある意味足かせともいえるJAS 制度ができるのは世の流れとして仕方がないことではありま したが、それでも生産者の負担をいかに減らすかということ を考え、提言されていました。

しかしやはりJAS制度の負担感は大きかったのか、一部の生産者からは、国の言いなりになって生産者を縛りつけているなどと誹謗されたこともあったと聞きました。それを聞いた私もいたたまれない気持ちになっていましたが、そんなことには全くへこたれず、信念を貫き国と生産者とのバランスをとりながら、双方との対話をしてこられました。

現在、鹿児島県は有機JASは場面積が北海道についで全国第2位となっており、有機農業先進県とも言われています。それも明江さんたちの努力なしでは成し得なかったものと思います。

明江さんの思いが永遠に引き継がれていくように、この強い意志と粘り強さを見習っていきたいと思います。

かごしま有機生産組合 有馬 亮

#### CONTENTS

P1~3 ・大和田明江さんを偲ぶ

P4 ・通常総会報告 ・フォーラム報告

P5 ·新理事紹介

P6 ·認証事業者紹介

P6 ・協会スケジュール案内 ・読書会の案内

P7~8 ・認証事業部よりお知らせ

P8 ・協会よりお知らせ



## 大和田明江さんを偲ぶ

副理事長の大和田明江さんが去る5月7日闘病の末に亡くなりました。高齢社会の日本では享年74歳はまだこれからという年齢です。昨年8月の大和田世志人さんの急逝といい、あまりにも早すぎる逝去でした。改めてお二人のご冥福をお祈りするとともに、これまで当協会を牽引して来られた二人の功績を称えたいと思います。お二人は「本当に何もかも一緒に取り組み、時には激しくぶつかり合いつつ心から信頼し合える同志として生きてきた」と明江さん自身が生前に書き残しています(koaa press, vol.94)。

明江さんは1999年12月の協会設立以来、15年近く専務理事兼事務局長として協会の経営全般を担われ、わたしが理事長を拝命した2017年以降は副理事長として協会の普及啓発活動を指導してきました。明江さんは1992年にオープンしたかごしま有機生産組合の直営店「地球畑」の代表を務めながら協会の経営も見ていたわけで、それは大変なお仕事だったろうと推察します。

明江さんは事あるごとに有機農業の4つの理念(「健康」「生態系」「公正」「配慮」)について語りました。また社会における女性の地位向上の必要性を説きました。そして、生産農家の視点に立って、有機農業をめぐる政策対応の不十分さを指摘しました。農薬や化学肥料をふんだんに使う慣行農業よりも、それらを使わない有機農業の方がどうして厳しく規制されるのか、言われてみると至極真っ当な疑問を会議で何度も投げかけました。大和田ご夫妻はいま後継者たちの奮闘を天上から見守っておられることと思います。

NPO法人鹿児島県有機農業協会 田代正一

小さい頃から大和田家の子どもたちとは幼なじみで、歳の近かった三女の悠希ちゃん、四女の玲子ちゃんとは大自然の中で良く走り回って遊んだものでした。それも30年以上前の話ですが、近所でご両親の世志人さん、明江さんと会うことはほとんどなく、今思えば当時からかなり忙しく有機農業の草創期を切り盛りされていたんだろうと思います。

昨年8月の世志人さんに続いて今年5月には明江さんまで亡くなられて、鹿児島はおろか、全国の有機農業界を引っ張って来られた2人のリーダーがこの世を去られたことは大きな衝撃であり、損失となったことは言うまでもありません。

当協会の副理事長を務めていた明江さんですが、ここ数年は病と闘いながらも会議などに出席されては、これからの有機農業の行く末を案じ、ご自身の想いを語っておられました。この1年ぐらいは「もう私は長くないから」と冗談交じりに言いながらも、人と会ってはいつもの調子で有機農業の4原則の話であったり、協会や地球畑での苦労を話されたものでした。

協会で常務理事をさせていただくようになり、傍にいる機会が増えた私は「またその話が始まったか(笑)」と 思いながらも、この話もいつまで聴けるだろうかと、自分で吸収するつもりで聴くようになっていました。

そんな明江さんでしたが、亡くなる直前に自宅で会った時には必死に話そうとしてくれているのにほとんど声も 出せない状態で、「もう話さなくていいから」と留めるのが精一杯でした。こんなことならもっと苦労話を聴いて おけばよかったとの後悔もありますが、次の世代に託された想いをしっかりと受け止め、後世へと繋いでいきたい と思います。

農業生産法人そのやま農園㈱ 園山宗光



## 大和田明江さんを偲ぶ

明江さんと出会って、言葉に出来ないほどの多くのことを学ばせてもらいました。アフリカの諺(ことわざ)に、村で一人の古老が亡くなると一つの図書館が消えてしまったとたとえられるそうです。明江さんの死は、私にとってまさにそんな思いでした。

明江さんの成し遂げた多くの業績の中から心に残るものを記します。

#### 「国際オーガニック映画祭」という映画文化を、 鹿児島の地に根づかせたこと

食・農業・環境に関わる優れた映画は、国内外を問わずたくさんあります。映画は、自分たちの暮らしを見つめ、生き方をも考えるきっかけを作ってくれます。しかし、協会の中では、認証業務など目の前の問題に追われて映画祭はなかなか必要とは認めてもらえない状況でした。そんな中で、明江さんは文化活動としての映画祭の必要性を訴え続けてこられました。今、この時代に必要とされている情報を映画の中で広く紹介していこうという意気込みと姿勢は、実行委員会という形で少しずつ実現していきました。

今年で16回目になる国際オーガニック映画祭。

これからも中身の濃い映画となるように努力していきます。

#### 「地球畑」を開くことで生産者と消費者をつなぐ場を作り、 鹿児島の地に根づかせたこと

有機農業運動が始まったころは、生産者が直接契約している消費者の家へ、1軒1軒、品物を届けるという形でした。

それを数年後に、「地球畑」という店舗を開くことができ、消費者がいつでも、必要な時に、必要なものを購入できるようになりました。また、生産者は地球畑へ搬入し、販売する形が出来上がりました。そして有機農産物や安全な調味料で作ったおいしい食事を、レストランで食べられるようにもなりました。今は当たり前のように思っていましたが、どんなに恵まれていることなのかを他県へ出かけた折に気づかされました。

また明江さんは、有機農産物の販売だけでなく、生産者と消費者をつなぐための活動にも重きをおいてこられました。その一つが地球畑通信です。明江さんが直接生産者を訪ね、有機農業に取り組むようになったきっかけや、現在の想いなどをていねいに、聞き取り、まとめ、その後に明江さんのコメントが書かれています。一人一人の生産者へ送る温かなエールの中に、有機農業運動の大切な骨子が入っていて、毎回すばらしい文章だなあと感心させられました。明江さんの文章には一本筋が通っていて、説得力があり、人を想う愛がこめられています。そこに至るまでの読書量や思考の積み重ねがどれほどのものか…。

最後に講演会の開催です。明江さんの提案で水俣病問題の講演会が実現できました。

ぶれることなく常に忘れてはならない、この運動の柱である水俣病問題を取り上げ、中川亜紀治先生に講演して頂いたことは、これからの運動の大きな指針となりました。

ここに書ききれないくらいたくさんの業績を残された明江さん。これまで本当にありがとうございました。 明江さんに出会えて幸せでした。心から感謝しています。

福迫 眞理子



# 総会報告









2023年5月20日(土)にかごしま環境未来館(鹿児島市)において、第24回通常総会と有機農業フォーラムを開催しました。

冒頭より田代正一理事長から、昨年大田和世志人組織財政 担当常務理事が逝去され、5月7日に逝去された大和田明江 副理事長のご功績を称え、ご冥福をお祈りする旨の挨拶を行 いました。さらに来賓の九州農政局鹿児島県拠点総括農政推 進官・伊藤宗敏氏と鹿児島県農政部経営技術課課長・中村育 生氏から、故大和田明江副理事長への弔意表明や鹿児島県の 有機農業普及に大和田世志人・明江両氏が大きく貢献された ことを踏まえて、今後も有機農業推進法や県の有機農業推進 計画に基づき政策の遂行や様々な取り組みを連携して進めて いきたい旨の挨拶がありました。

通常総会では、第1号議案の2022年度事業報告及び収支決 算の承認についてと第2号議案の2023年度事業計画及び収支 予算の決定についての審議とあわせて、2年に一度の役員改選 の年であるため、役員改選についても審議され、いずれも満 場一致で承認されました。

その後、新理事の皆様からの挨拶を行いました。今回の通 常総会も出席会員のご協力を得て滞りなく議事を進行するこ とができました。

# 第23回有機農業フォーラム報告







フォーラムの様子

2023年5月20日(土)、第23回有機農業フォーラムを開催しました。

「オーガニック給食をわたしたちの街で」と題し、千葉県いすみ市農林課班長 鮫田晋氏に講演していただきました。 参加者は会場のかごしま環境未来館への来場72名、オンライン30名、合計102名。認証事業者、行政関係者、県や市 町村の議員等さまざまな立場の方がご参加くださいました。

講演では、いすみ市が学校給食に有機米を導入した経緯や成果、市の有機農業推進班の体制、学校給食用の有機米や有機野菜の生産⇒受発注⇒納入等の流れ等について具体的な事例も含めて紹介されました。

- 「生物多様性」という切り口から有機米栽培に 取り組んだ。
- 一部の人の熱狂的な思想ではなく、多くの人の 一般的な要望であるという状況を醸成し、その ことを首長に理解してもらえる場を設けると効 果的。
- 特定の人を押し上げるために他の人を貶めたり 対立したりするのではなく、協調しながら周囲 も巻き込んで広げていく。

これから各市町村で有機農産物を学校給食へ導入 する活動を進める上で参考になりそうな話題がたく さん盛り込まれていました。

これらに加え、熱い想いを持ちながら冷静な判断をし、全体をコーディネートする人物、つまりいすみ市でいうところの鮫田氏のような存在もこの活動を進める上での重要な要素だろうと感じました。

参加してくださった方も、それぞれの立場でいろいろなことを感じ、学んでいただけたと思います。 今回のフォーラムで得たことをそれぞれの活動の中で生かしていただき、学校給食への有機農産物導入の拡大につながれば幸いです。





# 新理事紹介



# かごしま有機生産組合 代表 有馬 亮 氏

かごしま有機生産組合の有馬亮と申します。

以前協会の職員として認証業務に携わっていたため、ある意味、協会は古巣に 戻るという感覚です。今度からは生産者の立場として力になれたらと思いま す。

かごしま有機生産組合では、昨年8月に大和田世志人代表が急逝され、その 悲しみが癒える間もなく、5月に大和田明江代表まで逝ってしまわれました。 これまで頑張って来られて、みどり戦略もでき、これからという時でした。残 された私たちもお二人の意志を引き継いで頑張っていきたいと思います。 どうぞよろしくお願いいたします。

#### 鹿児島大学大学院理工学研究科 助教 中川 亜紀治 氏

鹿児島大学理学部にて天文と物理の教員をしています。5月の総会にて理事を拝命しました。昭和30年代に熊本・鹿児島の両県で発生した水俣病は、その後の日本に大きな影響を与えました。その中で、毎日の食生活の安全を大切に考えた人々がいました。いま各地で有機農業を営む方々の一部はそうした方々でもあります。私は研究者であると同時に一人の生活者としても水俣病の教訓を大切にしています。この想いがご縁となり今年1月末に大和田明江様よりお声かけ頂きました。皆様の理念と活動を大切にしながら、これから努力して参ります。よろしくお願いします。



# NPO法人鹿児島県有機農業協会 副理事長神宮司 恒幸 氏



今回、井上副理事長の後任として副理事長に就任いたしました神宮司恒幸と申します。

12年前、鹿児島県庁を定年退職し、その後鹿児島銀行で8年間主に畜産の 融資業務に関わっておりました。

協会の検査員・判定員として、お会いする有機農業の事業者の方々は、崇 高な哲学をお持ちで、接するたびに尊敬の念が湧きます。

今回縁あって副理事長に就任しましたが、協会の設立趣旨や関係者の皆様 の足跡を勉強中です。微力ながら田代理事長を補佐し、本協会の発展に尽力 してまいります。

何卒よろしくお願いいたします。

### 鹿児島大学農学部·農業生産科学科 教授 李 哉泫 氏

近年、カーボンニュートラルの実現を目指した「みどりの食料システム戦略」により、有機農業への国民的関心が高まっています。こうした中、2023年度より協会の新理事として、有機農業に関する学習や貢献の機会が得られたことを大変嬉しく思います。

協会の実務に関する経験や知識は乏しいものの、これまで取り組んできた 関連研究の成果が、鹿児島県の有機農業の成長・発展に貢献できることを心 より願っております。

何卒よろしくお願い申し上げます。



認証日:2006/5/31 認証№加工6

日置市伊集院町中川414-3

# 株式会社春日園川路製茶

#### Q1 何を生産していますか?

有機栽培茶

商品・・・・深蒸し煎茶、ベニフウキ紅茶、烏龍茶、 ほうじ茶

#### Q2 こだわりなどありますか。

茶の旨味を決めるアミノ酸は根から吸収される肥料成 分が原料になっています。

当園では季節に合わせて、地域資源である米ぬか、骨 粉、菜種かす、牛糞肥等をブレンドした肥料を使用して います。

#### Q3 有機農業協会に望むこと。 JASマークへの思いなど。

長く地道な活動の積み重ねが信用と信頼の証=JASマークだと思うのでこれからも消費者の方々に、有機JASの認知度の向上に務めていただきたい。

#### Q4 コロナ禍で影響がありましたか。 何か工夫していることがありますか。

コロナ禍で対面販売がほぼなくなりましたが、これを機 に自社ホームページを作成しました。 人材確保は通年の課題です。











#### Q5 これからの目標や夢は?

先代から引き継いだこの素晴らしい環境を持続し、 濃緑で旨いお茶を永続的にお届けできるよう人材育 成にも務めていきたい。

代表取締役 川路 到氏

#### 協会の年間スケジュール ご覧になれます(QRコード)



2023年5月20日に開催した第24回総会において今年度の事業計画が承認されました。2023年度事業予定表を当協会のホームページに掲載しました(^^)/当協会の事業全般(認証業務、普及啓発業務)について記載しています!









# オーガニック図書解説会のご案内



7/13 木 19:30~21:00 ZOOM(オンライン) にて開催



今回の対象図書はこちら ジーノ・ジロロモーニ 『イタリア有機農業の魂は叫ぶ』

申込みは鹿児島県有機農業協会 ☎099-258-3374 ⊠koaa@koaa.or.jp (7月11日〆切)

# 認証事業部からのお知らせ



### >> 有機JAS講習会開催のお知らせ

8月22日(火)・23日(水)に、オンラインにて有機 JAS 講習会を開催いたします。

有機JAS講習会では、新規事業者や既存事業者の初めて受講する方向けとなり、内容は有機食品の生産基準や申請書類の書き方等について説明させていただきます。

新しく担当者になる予定の方や、これから有機JASの認証取得を考えておられる方が近くにおいででしたら、ぜひお声がけいただきますよう、よろしくお願いいたします。

※詳細については、別紙をご参照ください。

また、今年度の有機JAS講習会は、11月にオンラインにて、2月に対面にて実施する予定で計画しております。詳細が決まりましたら、ホームページやこあぷれすなどでご案内させていたただきます。

### >> 有機酒類の認証の期限について

有機酒類は2022年10月1日から有機加工食品のJASの認証を取得し、有機JASマークの表示ができるようになりました。2022年10月1日から2025年9月30日までは、有機酒類の表示は以下の2通りの方法が認められています。

- ①有機加工食品のJASの認証を取得し、有機JASマークを貼付の上、表示を行う。
- ②国税庁の「酒類における有機の表示基準」※に従い表示を行う。(有機JASマークの貼付は行わない。)

#### 当協会の独自認証は②に該当します。

※「酒類における有機の表示基準」は2022年10月1日に廃止となりましたが、2025年10月1日までの間、引き続き廃止前の基準を適用できる措置が設けられています。2025年10月1日以降、酒類に「有機」、「オーガニック」等と表示するには有機JAS認証を取得し、有機JASマークを付すことが必要になります。独自認証の事業者のみなさまは、できるだけ早いうちに①に移行していただきますようお願いいたします。

### >> 各種調査へのご協力のお願い

当協会の通常の実地検査以外に、以下のような調査を実施する場合があります。

- ①独立行政法人農林水産消費安全技術センター(FAMIC:ファミック)福岡センターによる立会調査
- ②当協会の検査員候補の研修のための同行調査
- ③無通告調査
- ①は今年度3件実施します。②は時期や件数は不確定ですが現在も実施しています。③は今年度1件以上実施予定です。
- ①及び②は通常の新規や継続の実地調査の際に併せて実施し、通常の1名の検査員に加えFAMICの調査員または当協会の 指導検査員が検査現場にお伺いします。③は通常の検査とは別に、事前に連絡することなく検査現場にお伺いします。

いずれの検査もJAS法や当協会の業務規程において必ず実施しなければならないものです。これらの検査を実施することによって当協会の検査員の力量の確認ができており、結果として認証事業者のみなさまの検査の質の向上につながっています。

認証事業者のみなさまにご負担がかからないように努めますので、対象となった場合はできるだけご協力いただきま すようお願いいたします。

### >>> 外国格付表示の 認証の期限について

2022年10月1日から、有機同等性を利用して輸出される 有機製品に外国・地域の有機制度で定められているロゴマ ーク(外国格付の表示)を付す場合、登録認証機関から認証 を受けることが必要となりました。対象は米国、カナダ、 EUです。

経過措置の有効期限は2023年9月30日。直近の9月末の 判定会で判定するためには遅くとも9月初旬、「留保」判 定となる可能性を考慮すると8月初旬頃までに認証申請書 を提出いただく必要があります。当該認証取得が必要な事 業者のみなさまは早めの対応をお願いいたします。

# **A付実績報告書、認証取得面積報告書提出締切が過ぎました!**

認証事業者のみなさまに提出をお願いしております 格付実績報告書、認証取得面積報告書の提出は6月30日 が締切でした。まだ提出いただいていないみなさまは 至急ご提出ください。

認証取得面積報告は有機農産物の生産行程管理者のみです。

有機JASマークを貼付し出荷した実績がない方も「0」である旨を報告してください。

### >> 有機畜産物の認証に向けての協力について(お願い)

当協会では2017年10月16日から有機畜産物、有機飼料の認証を開始し、2018年に有機飼料を1件認証しました。しかし有機畜産物についてはいまだに1件も認証できていません。有機畜産物の認証は全国的にも件数が少なく、そのほとんどが北海道の事業者さんです。鹿児島県は全国有数の畜産県ですので、当協会でも有機畜産物を是非とも認証したいと考えてきました。

そんな中、採卵鶏、肉用牛それぞれについて認証を取得したいという方が現れました。長年の悲願を達成できる貴重な機会が出現したのです。有機畜産物の認証は、特に餌(飼料)の基準のハードルが高く、認証に取り組みたい方にとって厳しい課題です。そこで当協会としても、これの認証に向けて可能な限りサポートを行いたいと考えています。

以下は有機畜産物の飼料を分類した一覧表です。

#### 《家畜及び家きんに給与できる飼料》

用語			説明	内容	事例
有機畜産用 自家生産飼料			生産行程管理者 が自ら生産する もの (自らが生産する ので有機JASマー	有機農産物 有機飼料(牧草など)	自家生産の大豆、とうもろこし (茎葉を含む)、稲わら、さつまい も茎葉、飼料用稲(飼料用米、 WCS用稲)、ソルガム、イタリア ン、エンバク、牧草など
		有	クはつかない)	有機飼料	自家配合飼料
有機畜産用購入飼料	有機飼料等	機畜産用飼料	外部から購入するもので右を もので右もの に該当す有機JAS マークがついて いること)	有機農産物	大豆、とうもろこし(茎葉を含む)、稲わら、さつまいも茎葉など
				有機加工食品(ただし乳以 外の畜産物は使用不可)	おから、粉末乳、焼酎粕、でん ぷん粕など
				有機飼料	飼料用稲(飼料用米、WCS用 稲)、ソルガム、イタリアン、エ ンバク、牧草、配合飼料など
				有機畜産物の規格を満たす 有機乳	乳
	その他		有機ではないが 使用可能なもの	天然物資由来のミネラル補給を目的とする飼料(入手困難な場合はミネラル補給を目的とする飼料添加物)	ミネラル類
				化学処理を行っていない魚 粉、藻類、酵素、微生物	魚粉











有機畜産物の認証事業者が外部から飼料を購入する場合、認証ほ場で栽培された有機JASマークが付された 農産物や飼料を一定割合以上、使用する必要があります。コスト的にもできるだけ近いところから調達できる ことが望ましいと考えます。

そのため、認証事業者のみなさまの中にご自身で生産された有機農産物や有機加工食品及び有機飼料を有機畜産物の飼料として供給できるという方がいらっしゃいましたら是非ご一報ください。

地元で生産された有機農産物等を用いて生産されたこだわりの牛肉や鶏卵を鹿児島で認証し、地元はもちろん県外、海外等の多くのみなさんに味わってほしいという想いに共感いただける方、是非ご協力ください。

#### 協会からのお知らせ

### 年会費納入のお願い

2022年度も皆さまのご支援により、協会の活動を無事に終えることができました。ありがとうございました。 新年度の開始にあたり、2023年度の会費納入にご協力をお願い申し上げます。払込票等は、同封の資料にございますのでご確認ください。

本年も皆さまからのご意見・ご要望をお伺いしながら、有機農業を支援し、広げる活動をして参ります。 引き続きご協力をよろしくお願い申し上げます。

同封の払込取扱票をご利用いただくか、下記、振込先へお振込みください。

金融機関名	預金の種類	□座番号	□座名義
鹿児島銀行 真砂支店	普通預金	555055	特定非営利活動法人 鹿児島県有機農業協会
鹿児島みらい農業協同組合 郡元支店	普通預金	0069089	鹿児島県有機農業協会

